■ 紹介記事

日本における八景の分布について

Distribution of Eight Scenery in Japan

田中誠雄* 金東必** 青木陽二***

Masao TANAKA Dong-Pil KIM Yoji AOKI

摘要：中国に始まった山水画の一つに宋の時代に描かれた瀟湘八景画がある。これは我が国に伝わり、日本人の風景観に大きな影響を与えた。室町時代に絵画として伝わって以来、近江八景など多くの八景を日本の地形に見いだすことになった。日本の地に見いだされた現在に至るまでの八景の分布を明かにすることにより、風景観としての八景の影響を明かにするものである。この資料では現在までに地方自治体により把握されている八景の分布と見いだされた年代を紹介するものである。回答の得られない自治体があるので、今後の調査により八景の数は増加すると思われるが、現在までの資料でも八景の影響の大きさを推定するに十分な価値を有する。

1. はじめに

日本人の風景観に大きく影響し、多くの画家の画題となった八景は中国に原点を求められる。これは風景評価の様式が中国で生まれ(鈴木 1981)、文字や技術と同じように古代中国から伝えられたことを表わす。そして八景は朝鮮、台湾、日本へと広く伝わった風景評価の様式である(田中 1989-98)。風景は実体験から得られたものであるので、八景は当時の日本人には到達が困難な場所における体験であった。よって、絵画という一つの抽象的な概念を伝える方法により伝わった。そのため絵画から連想される空間を身近な場所に求め、その概念の具現化を試みたのであった。場所の違いは次第に風景評価の内容までも変えて、新しい風景評価の要素を見いだした。

本調査では、日本全国に分布する八景の所在を知ることににより、八景の伝播とその概念の変容、及び風景評価の広がりについて明かにするものである。

2. 調査の方法

各都道府県の教育委員会を中心とした担当者に対し、1996年6月にアンケート票を送り、八景の所在と特性について8月までに回答を得た。その後回答をとりまとめ、1998年の12月までに回答の内容を確かめた。調査の内容は、分布する範囲、該当する市町村、八景の個別名称、観賞された時代、絵画の記録の有無、写真の記録の有無、文書としての記述の有無である。また調査票を記入した担当者名も記載させた。これは後日の調査内容の確認の為である。

3. 全国の分布

表1のように、北海道から沖縄まで広く八景呼ばれる風景が分布することがわかった。

多い県では51箇所、少ない県ではなしというところもあった。市町村まで調査しないと、よりローカルなものは見つからないかも知れないが、全国に地域によってこのような風景評価が広まったところと、そうでないところがあると思われる。これは八景としての風景評価が得られない気候・地形条件の場所であったのか、文化として伝わらなかったのか、現在までの知見では詳しくは分からない。北海道まで分布しているので、昭和40年代までには景を選定するということが一応全国に伝わったと考えられる。回答された八景には中国で選ばれた、瀟湘八景を踏襲したもの(八景型)と一部が異なったものや追加されたもの(変形型)、かなり瀟湘八景とは異なってその地方の名所を中心に約6-12景を選んだもの(名所型)の3種類が見られる。そして時代が新しくなるに従って八景型が少なくなる。これは韓国に伝わった瀟湘八景の報告とも一致している(Kang and Kim 1991)。地域的に見ると、中国で生まれた瀟湘八景のパターンを踏襲しているのは青森県から宮崎県までであった。

また一般の人々に知られた有名な八景は自治体の回答によれば水戸八景が東の端に当たる。このことは水戸以北には、八景型の風景評価の広まりに何らかの遅れ、もしくは不都合があったのではないかと考えられる。水戸八景は江戸の後期に盛んになったが、そのころには青森や盛岡でも一応八景が定められているので、文化の伝播として本州北部までは伝わったと考えられる。

4. 各自治体別の分布

北海道では厚岸町と室蘭市にあることが知られている。2箇所とも近年設定されたもので名所型である。本格的に開拓が始まったの

が明治以降であり、風景評価に関心が起こったのも富良野や美瑛などのように近年であるので理解できる。

青森県は弘前市、八戸市、平内町、蟹田町、深浦町、平賀町、小泊村、川内町に分布している。瀟湘八景型は4箇所、名所型が6箇所である。小泊を除いて、いずれも明治以降の指定である。岩手県は盛岡市に有り、南部藩が江戸中期に指定している。絵画の資料も残っているので、視対象を特定しやすい。これは瀟湘八景を踏襲している。宮城県は八景の記録がないと報告している。秋田県では角館町に1箇所、山形県では酒田市、山形市に2箇所見られる。これらはいずれも名所型である。福島県では会津若松市、猪苗代町、いわき市、相馬市に見られ、八景型が2箇所、変形型が3箇所、名所型が1箇所ある。

茨城県では県内広く分布し、51箇所が報告された。八景型が24箇所、変形型が12箇所、名所型が15箇所である。栃木県では日光に1箇所見られる。群馬県では県内広く分布し、42箇所の報告があった。八景型は5箇所、変形型が17箇所あった。埼玉県では熊谷市、幸手市、越谷市と県西に見られ、八景型が2箇所、変形型が1箇所、名所型が2箇所見られた。千葉県では印旛村、市川市、袖ヶ浦市、木更津市、東金市、一宮町、市原市に見られた。八景型は3箇所、名所型が4箇所見られた。東京都は回答が得られなかった。神奈川県では横浜市、横須賀市、平塚市、藤沢市、逗子市、三浦市に見られ、八景型が10箇所、変形型が2箇所、名所型が3箇所見られた。

新潟県からは回答が得られなかった。富山県からはないと回答があった。石川県からは全域に広く見られ、八景型が14箇所、変形型が4箇所、名所型が16箇所見られた。福

*神戸市建設局 **韓国密陽産業大学校造景学科 ***国立環境研究所社会環境システム部

井県では敦賀市、勝山市に見られ、八景型は2箇所と名所型1箇所見られた。山梨県では塩山市、山梨市、大月市など見られ、変形型が1箇所と名所型が6箇所見られた。長野県では木曽谷に変形型が1箇所見られた。岐阜県では県全体に変形型が1箇所見られた。静岡県では県中部に八景型が1箇所見られた。愛知県ではないとの報告があった。

三重県ではないとの報告があった。滋賀県では近江八景が瀟湘八景型として報告された。また名所型が2箇所報告された。京都府ではないとの報告があった。大阪府では大阪市、堺市、大阪狭山市に分布することがわかった。兵庫県では県内に広く分布し、八景型が4箇所、変形型が6箇所、名所型が20箇所見られた。奈良県では名所型が1箇所報告された。和歌山県からはないとの報告があった。

鳥取県では鳥取市、米子市に、八景型が1箇所、変形が2箇所見られた。島根県ではないとの報告があった。岡山県からは回答が得られなかった。広島県では広島市と宮島町に3箇所あるが、いずれも八景型がくずれた名所型であった。山口県では下関市、山口市、萩市、長門市にみられ、八景型が1箇所、名所型が5箇所見られた。

徳島県と香川県にはないと報告があった。愛媛県では県内に広く分布し、八景型が5箇所、変形型が2箇所、名所型が16箇所見られた。高知県には一箇所見られる。

福岡県では北九州市と添田町にあることがわかった。佐賀県には三瀬村に一箇所あることがわかった。長崎県では佐世保市周辺に名所型が1箇所あることがわかった。熊本県では熊本市、八代市、菊池市、三角町、松橋町、八景型が3箇所、名所型が10箇所見られた。大分県では別府市に名所形が1箇所あることがわかった。宮崎県では串間市、高千穂町にあることがわかった。八景型が1箇所、変形型が1箇所、名所型が3箇所見られた。鹿児島県では大島支庁に1箇所、名所型があることがわかった。

沖縄県では那覇市に4箇所の名所型があることがわかった。

5. 時代別分布

現在までに集まった回答より、八景の設定を時代別に集計すると、表2のようになる。設定が始まった室町時代には、3箇所、安土桃山時代は、1箇所、江戸時代は71箇所、一番多く、広まったことを示している。明治時代には25箇所、大正時代には5箇所、昭和には21箇所、平成に入っても7箇所と、未だに風景評価の一つの型を示している。

時代の長さから判断すると、江戸時代より明治時代の方が多い。これは八景の広がり

表－1　八景の全国分布（1999年1月23日現在）

県名	八景の名称
北海道	室蘭八景(室蘭市)、観光十景(厚岸町)
青森県	津軽十景(弘前市)、○八戸八景(八戸市)、○新八戸八景(八戸市)、○平内八景(平内町)、平内六景(平内町)、○蟹田八景(蟹田町)、深浦十二景(深浦町)、唐竹八景(平賀町)、小泊名所十二景(小泊町)、○西又八景(川内町)
岩手県	○盛岡八景(盛岡市)
宮城県	なし
秋田県	秋田十二景(角館町)
山形県	山形市街十景(山形市)、山形十景(山形市)、酒田十景(酒田市)
福島県	本寛寺八景(会津若松市)、○猪苗代八景(猪苗代町)、△平曲松八景(いわき市)、△窪田八景(いわき市)、○小名浜八景(いわき市)、△北山八景(相馬市)、矢祭八景(矢祭町)
茨城県	○水戸八景(水戸)、○常陸八景(水戸)、○霞浦八景(水戸)、○新霞ヶ浦八景(水戸)、○千波沼八景(水戸市)、栗里八勝(水戸市)、神崎八景(水戸市)、○東河内八景(日立市)、川尻八景(日立市)、△田尻八景(日立市)、○滑川八景(日立市)、会瀬八景(日立市)、諏訪八景(日立市)、大久保八景(日立市)、△川原八景(日立市)、△久慈八景(日立市)、坂下八景(日立市)、○土浦八景(土浦市)、○土浦八景沼沢(土浦市)、○古河八景(古河市)、○石岡八景(石岡市)、新狭石園八景(石岡市)、△下館八景(下館市)、○鹿島八景(鹿嶋市)、○鹿島八景明治(鹿嶋市)、△岩間八景(岩間町)、石神八景(東海村)、○那珂町八景(那珂町)、○菅谷八景(那珂町)、那珂八景(那珂町)、△本米崎八景(那珂町)、○本崎八景(那珂町)、瓜連八景(瓜連町)、○辰ノ口八景(大宮町)、△山田八景(水府村)、△天下野八景(水府村)、△大子八景(大子町)、△下金沢八景(大子町)、羽黒八景(大子町)、見落とし八景(大子町)、八竜八景(大子町)、八祭八景(大子町)、○久慈八景(大子町)、○北浦八景(鉾田町)、○瀧来八景(瀧来町)、○桜川の八景(若瀬町)、△大宮八景(霞ヶ浦町)、○八郷八景(八郷町)、△八郷八景昭和(八郷町)、○真壁八景(真壁町)、○椎尾名所八景所(真壁町)
栃木県	日光八景(日光市)
群馬県	群馬名勝表(明)、群馬名勝(明)、沼田名園十地(利根郡)、△前橋八景(前橋市)、△前橋十景(前橋市)、△前橋公園八景(前橋市前橋公園)、前橋市街十景(前橋市)、前橋十二景(前橋市)、△上細井四季八景(前橋市上細井)、○並榎八景(高崎市)、△高崎八景詩画(高崎市)、△大楽寺八景(高崎市)、倉賀野見立八景(高崎市)、天王山八勝(高崎市)、長松寺八景(高崎市)、○伊勢崎八景(伊勢崎市)、西長岡八景(伊勢崎市)、沼田八景(沼田市)、△館林八景(館林市)、△高根八景(館林市)、赤川八景(赤川市江戸)、赤川八景(赤川市)、赤川十景(赤川市)、有馬八勝(赤川市)、石原八景(赤川市)、藤岡八景(藤岡市)、△安中八景(安中市)、△後閑八景(安中市)、○秋間八景(安中市)、△磯部八景(安中市)、○八崎八景(江橋村)、△室田八景(榛名町)、○本郷八景(榛名町)、金谷八景(群馬町)、新撰伊香保八景(伊香保町)、伊香保八景(伊香保町)、伊香保八景(伊香保町)、新伊香保八景(伊香保町)、野田八景(吉岡町)、後園十二景(吉岡町)、吾妻峠十勝(長野原町)、中山八景(高山村)、辰高八景(高山村)、黒岩八景(月夜野町)、赤堀十景(赤堀町)、小保方の三景(東村)、○西丘八景(飯倉町)
埼玉県	△三郡八景(明)、○熊谷八景(熊谷市)、越谷八景(越谷市)、幸手八景(幸手市)、長瀬八景(長瀬町)
千葉県	○印旛八景(印旛村)、○国府台八景(市川市)、○南総八景(袖ヶ浦市)、木更津八景(木更津市)、房総八景(東金市)、一宮八景(一宮町)、姉ヶ崎八景(市原市)
東京都	調査中
神奈川県	○金沢八景(横浜市)、鶴見八景(横浜市)、横浜八景(横浜市)、○旗風ヶ浦八景(横浜市)、○北郷八景(横浜賀市)、○横須賀八景(横須賀市)、○横濱八景(横濱市)、△吉井八景(横須賀市)、○宮田八景(三浦市)、○平塚八景(平塚市)、江島八景(藤沢市)、○田越八景(逗子市)、○逗子八景(逗子市)、○二崎八景(三浦市)、△虎峰寺八景(海老名市)、相大寺清浄八景(海老名市)
新潟県	なし
富山県	なし
石川県	金沢八景(金沢市)、金沢十景(金沢市)、○大乗寺山八景(金沢市)、上野八景(金沢市)、湯涌十景(金沢市)、△七尾八景(七尾市)、○湧浦八勝1(七尾市)、湧浦八勝2(七尾市)、湧浦八勝3(七尾市)、能登八景(七尾市)、○加州八景(小松市)、○能美八景(小松市)、△輪島八景(輪島市)、○三崎八景(珠洲市)、○長浜八景(珠洲市)、△山代八景(加賀市)、○鹿島八景(加賀市)、○邑知八景(羽咋市)、山中八景(山中町)、山中十景(山中町)、山中十二景(山中町)、鶴来十二勝(鶴来町)、鶴来八景(鶴来町)、吉野十景(吉野谷村)、○富来八景(富来町)、○神代八景(志賀町)、○志賀八景(志賀町)、○中屋八景(穴水町)、○黒島八景(門前町)、総持寺十境1(門前町)、総持寺十境2(門前町)、△替月八景(門前町)、鶴川十二景(能都町)、○鶴川八景(能都町)
福井県	○敦賀八景(敦賀市)、○勝山八勝詩歌(勝山市)、雲松山十二景(勝山市平泉寺)
山梨県	△聖妻八景(奥)、山梨十名所(明)、山梨新十景(明)、塩田八景(塩田市)、塩山十名所(塩田市)、山梨市八景(山梨市)、富嶺十二景(大月市)
長野県	△木曽八景(奥)
岐阜県	岐阜新八景(明)
静岡県	○八景(明)
愛知県	なし
三重県	なし
滋賀県	○近江八景(奥)、琵琶湖八景(奥)、業々園十景(彦根市業々園)、近江十二景(明)、高島八景(高島町)
京都府	なし
大阪府	最花八景(大阪市)、最花八勝(大阪市)、難波十二景(大阪市)、難波十観(大阪市)、住吉八景(大阪市)、堺八景(堺市)、△狭山八景(大阪狭山市)
兵庫県	△有馬八景(神戸市)、有馬十二景(神戸市)、○須磨八景(神戸市)、△飾磨江亭八景(姫路市)、府中徳徳山八景(姫路市)、八代別野八景(姫路市)、△勝方津八景(姫路市)、青山八景(姫路市)、○的形八景(姫路市)、赤石八景(明石市)、明石八景(明石市)、新明石八景(明石市)、明石城十景(明石市)、○西宮八景(西宮市)、由良十二景(洲本市)、△精道十景(丹波市)、芦屋十景(芦屋市)、那波十景(相生市)、那波浦十景(相生市)、○首瀬十二景(高砂市)、生石子四景(高砂市)、母子十景(三田市)、法華山十二景(加西市)、東条湖八景(東条町)、加古八景(福美町)、家島十一景(家島町)、△三日月八景(三日月町)、○城崎八景(城崎町)、若屋十景(淡路町)、国府十景(三原町)
奈良県	南都八景(奈良市)
和歌山県	なし
鳥取県	○因幡八景(鳥取市)、△米子八景1(米子市)、○米子八景2(米子市)、米子八景3(米子市)、△歸海八景(米子市)
島根県	なし
岡山県	なし
広島県	福童園八勝(広島市)、神崎八景(広島市)、鹿島八景(宮島町)
山口県	上関十二景(下関市)、長府十二景(下関市)、山口十景(山口市)、○萩八景(萩市)、大家寺十景(長門市)、仙崎八景(長門市)
徳島県	なし
香川県	なし
愛媛県	伊予十二景(明)、愛媛八勝(明)、愛媛十二景(明)、○松山八景(松山市)、道後八景(松山市)、道後十二景(松山市)、郡中八景(松山市)、高瀬十勝(松山市)、伊予鉄道沿線十二景(松山市)、双岩八景(八幡浜市)、○水見八景(西条市)、石上十四景(西条市)、植塚八景(西条市)、吾川十二景(伊予市)、△神明神楽舞山十景(久万町)、○大井八景1(大西町)、○大井八景2(大西町)、○菊間八景(菊間町)、乃万八景(菊間町)、大三島六景(大三島町)、△砥部十景(砥部町)、長浜八景(長浜町)、御荘八景(御荘町)
高知県	ルック十佐(明)
福岡県	広寿山十六景(北九州市)、彦山八景(添田町)、彦山十二景(添田町)
佐賀県	三瀬八景(三瀬村)
長崎県	北松八景(佐世保市)
熊本県	○川尻八景(熊本市)、臨流八景(熊本市)、成慶園十景(熊本市)、谷隠軒十景(熊本市)、八代八景(八代市)、○林鹿庵八景(八代市)、菊池八景(菊池市)、三角八景(三角町)、○松橋八景(松橋町)、兼秀庵十五景(松橋町)、戸下八景(長岡村)、芦北八景(芦北町)、野坂浦十景(芦北町)
大分県	別府八景(別府市)
宮崎県	○福島八景(串間市)、田原八景(高千穂町河内)、河内指野八景(高千穂町河内)、河内八景(高千穂町河内)、△下野八景(高千穂町河内)
鹿児島県	奄美十景(大島支庁)
沖縄県	琉球八景(那覇市)、中山東夷八景(那覇市)、首里八景(那覇市首里)、同業苑八景(那覇市首里)

ゴシックは県民に良く知られている八景
○は主たる分布域；都道府県、市町村、集落
○は瀟湘八景を踏襲したもの、△はその変形

表－2 設定時代の区分

時代	期間(年)	設定総数	初期	中期	後期	不明	頻度(箇所/年)
室町	234	3	1	1	1	0	0.01
安土桃山	25	1	1	0	0	0	0.04
江戸時代	265	71	9	17	32(5)	13	0.27
明治	45	25	3	4	12(3)	2	0.55
大正	15	5	3	0	1(1)	1	0.33
昭和	64	21	11	4	0	0	0.33
平成	10	7	7				0.70

江戸後期から始まったからである。現在も評価が続いているが、古い八景が失われて、新しいものが選ばれている場合と、全く別に定められたものがある。これらの変遷を分析することにより、風景観の変遷も分かんと思われる。

6. 考察

この度の調査で現在までに全国に 284 箇所の八景の風景群が見つかった。瀟湘八景を踏襲するものは 85 箇所、変形されたものが 47 箇所見つかった。これらの結果はまだ報告がない都県からの回答により、また市町村について調査することによりさらに増加する可能性がある。このことは風景評価という現象が、日本人にとって広く行なわれた現象であることを示している。よって Appleton (1980) が風景評価を科学と結び付けようとしたことは妥当なことと考えられる。

風景評価は、人間の知的水準に影響されるという指摘があるので(青木 1997)、その社会における文化の程度の一面を表わすと考えられる。また瀟湘八景をそのまま踏襲することが容易でなかった自然条件、例えば沖繩の積雪(小林 1993)も考えられるので、八景

型の分布は、ひとつの見方がどこまで伝達したかを教えてくれる。これにより、10 世紀中国で確立された風景評価の様式が、日本全国に数世紀かけて広まったことが分かん、日本における中国文化の影響の大きさを改めて知った。これは芳賀(1986)が八景絵画の影響において指摘したことと同じである。

風景評価がこのように文化的色彩の強いものである以上、西洋文化の影響やまだ日本では知られていない文化の影響により、風景評価は変化する可能性がある。一方、日本における八景の変容を見ると、日本における自然条件の影響の大きさが分かる。このような現象を把握し、人類に共通な風景評価や、気候風土による変容を知ることが、これからの風景計画に求められるものと思われる。

7. まとめ

全国の都道府県の担当者に八景に関するアンケート調査を実施することにより、以下の点が明かになった。

- 1. 全国に 200 を越える評価された風景群があることが分かった。中国に発生した瀟湘八景型は 85 箇所ほど見つかった。
- 2. 風景評価は日本全国で広く行なわれてい

る現象であることがわかった。

3. 瀟湘八景型の分布には限界があることが分かった。

4. 八景が急速に広まった時代があった。

謝辞

全国調査のアイデアは篠原修東京大学教授にいただいた。謝して記す。

調査では全国の自治体担当者の快い協力を得た。改めて謝意を表す。また茨城県の八景調査では、川崎建夫大成女子高校教諭の資料を参考とした。御好意に感謝する。

参考文献

1) 青木陽二(1997): 欧文献に見る自然風景における景観評価研究の変遷: ランドスケープ研究 61(1), 68-73

2) Appleton, J.(1980); Landscape in the Arts and the Science: University of Hull, Hull, 16pp.

3) 芳賀徹(1986): 風景の比較文化史ー「瀟湘八景」と「近江八景」: 比較文学研究 50, 1-27

4) Kang, Young-Jo and Kim, Young-Ran (1991): A Study on the Type and the Spatial Location of Pal-Kyong(eight scenery) in KOREA: 韓国庭苑学会誌 10, 27-36

5) 小林亨(1993): 移ろいの風景論, 鹿島出版会, 東京, 211pp.

6) 鈴木敬(1981): 中国絵画史(上), 吉川弘文館, 東京, 337pp.

7) 田中誠雄(1989-98): 近江八景小考: 平成元-10 年度日本造園学会関西支部大会研究発表要旨

Summary : The Eight Scenery is a typical Sansui (mountain and water landscape) painting, was painted in old China of Sung Dynasty, circa 10th century. The painting was introduced to Japan in 14th century and affected to the landscape appreciation of Japanese geographical condition until now. The questionnaire survey was held on to local administrations to investigate the distribution of the Scenery in Japan. The results are obtained as followings: 85 original type (Chinese type appreciation) Eight Sceneries, 284 Japanese type Sceneries, and 47 modified type Sceneries are found. Eight Sceneries were observed throughout Japan. However, northernmost distribution of Chinese type show the boundary within Honshu and none in Hokkaido. The appreciation has the popularity at the Edo Era (1603-1867).